



The 45th Business Report

第45期 報告書 2021年1月1日～2021年12月31日

ビーピー・カストロール株式会社





平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに、ビーピー・カストロール株式会社「第45期 報告書」をお届けいたします。

当期の概況

当期は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まらず、企業や個人の活動に制約が生じました。原材料価格に大

きな影響を与える原油価格の動向は、需給のタイト感が強く意識され前年平均と比べ7割上昇となり、新車販売台数は、世界的な半導体不足の影響により対前年比で約3%の減少となるなど、厳しい経営環境となりました。

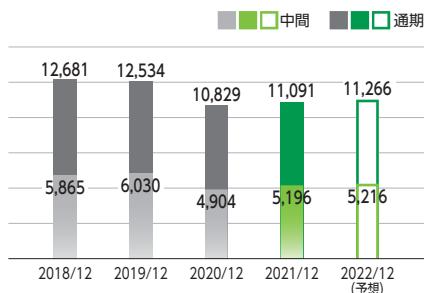
このような市場環境の下、自動車用潤滑油ビジネスにおいて、主力ブランドをさらに強化するため、最新の省燃費車に向けた超低粘度オイルの導入、需要期におけるプロモーションの実施やeコマースの拡販に加え、bpグループが提

財務ハイライト

Financial Highlights

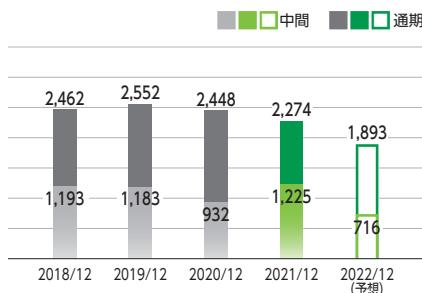
売上高

単位：百万円



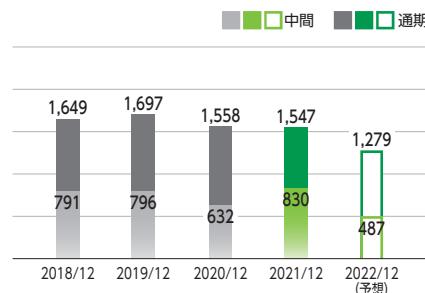
経常利益

単位：百万円



当期(四半期)純利益

単位：百万円



唱する2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする“カーボンニュートラル”のコンセプトを訴求し環境問題にも取り組んでまいりました。

また、自動車用潤滑油製品以外でも、エンジン内部を手軽に洗浄できる「エンジンシャンプー」や、カーケア製品「カストロールプロシリーズ」へ年間を通して積極的な投資を行い、購入者の拡大を促進いたしました。

これらの結果、売上高は1,091百万円、経常利益は2,274百万円、当期純利益は1,547百万円となりました。

当期の期末配当につきましては、配当方針に基づき1株当たり39円とさせて頂きました。

■ 中期経営計画について

当社は、2022年度を最終年とする中期経営計画(2018-2022)に取り組んでまいりましたが、長引く新型コロナウイルス感染症拡大が及ぼす経済への影響、ウィズコロナ・ポストコロナに向けた経済活動の再開とそれに伴うエネルギー需要の回復や原材料価格の変動、脱炭素社会の実現に向けた自動車業界の取り組みといった事業環境の急速な変化に対応し、当社が持続的な成長を目指すため、1年前倒しで2022年度を初年度とする中期経営計画(2022-2026)を策定いたしました。(計画の概要は3~6ページに掲載しております)

■ 次期の見通し

当社では、自動車用潤滑油市場全体としては新たな需要の押し上げ要因は見当たらず、引き続き売上数量・売上高は減少傾向が継続すると予測しております。また、原材料価格の面では、原油をはじめとするエネルギー・資源価格の上昇と高止まりが、国内経済の回復基調や企業収益に悪影響を及ぼす可能性も指摘されており、当社ビジネスへの影響を注視していく必要があります。

このような環境の下、中期経営計画(2022-2026)の計画初年度の数値目標として、売上高は11,266百万円、経常利益は1,893百万円、当期純利益は1,279百万円を計画しました。この数値目標は、原油をはじめとするエネルギー・資源価格の上昇と高止まりの影響などを勘案し2021年度対比で増収減益予想となりますが、サステナビリティへの対応を進め、環境配慮型の低粘度・省燃費商品の拡販、マーケットニーズに合致した新商品の導入、プレミアム商品の消費者への更なる訴求、カーケア商品をはじめとする近隣カテゴリ商品を通じた消費者との接点構築、新規取扱店の拡大に加え、引き続き原価低減・コスト削減に注力し、全社員が今まで以上にひとつのチームとなり、サステナビリティの価値観を共有し、安全で効率の良い業務(オペレーショナルエクセレンス)を常に追求し、計画の達成に取り組んでまいります。

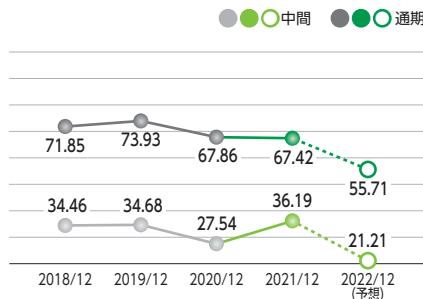
株主の皆様におかれましては、今後ともCastrolブランド及びbpブランドへの変わらぬご愛顧と、当社へのより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年3月

ビーピー・カストロール株式会社
代表取締役会長 小石 孝之
代表取締役社長 平川 雅規

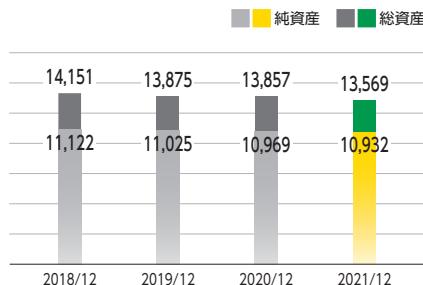
1株当たり当期(四半期)純利益

単位:円



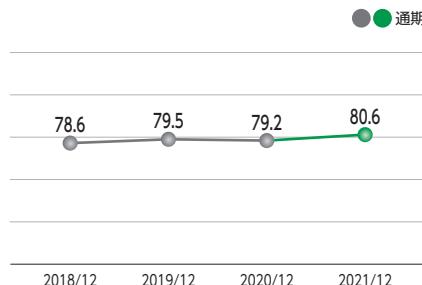
純資産/総資産

単位:百万円



自己資本比率

単位:%



2022年度を初年度とする中期経営計画（2022-2026）を策定いたしました。

次期中期5ヵ年計画は、2022年度から2026年度までを計画期間としてスタートします。

急速に変化する市場環境の中においても当社の強みを生かしながら長期的な信頼と価値を築きつつ、新たなカテゴリーへの挑戦も含めて事業ポートフォリオを拡大・再構築することにより収益基盤の更なる強化を目指します。また、持続可能で豊かな社会の実現に貢献するためにSDGsで示された社会課題解決に向けての取り組みからもたらされる既存の枠を超えた事業機会の創出や事業成長により、持続的に企業価値を向上し、更なる飛躍に向けての礎を築いていきます。

■ 経営理念とサステナビリティへの取り組み

BPカストロールは、下記の経営理念(ミッション)を定め、サステナブルな経営を行ってきました。そして、私たちの商品・サービスによって、人々の社会生活を豊かにするとともに環境・社会課題に具体解を示し、人々の笑顔あふれる持続可能な社会をつくっていきます。

また、このような価値観・取り組みは、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」と親和性が高く、事業活動を通じたSDGsの達成に貢献できると考えています。

ミッション

「消費者・カスタマーのニーズを第一に考慮し、差別化された潤滑油製品及び関連製品・サービスを提供する、長期的な信頼と価値を築き継続的に業績を上げていけるベストブランド・メーカーを目指します。そして、安全かつ活気のある職場環境を社員に提供し、利益成長を実現し、サステナブル(持続可能)であり、かつマテリアル(大規模)なビジネスを実現することで業界をリードする利益を株主に提供します。」

■ サステナビリティとSDGsへの貢献

2015年に国連総会において採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals : SDGs)」は、貧困や不平等、教育、環境などに関連して、2030年までにあらゆる国と地域が達成するべき17の目標です。

地球上の様々な課題解決を図り、誰一人取り残さないより良い国際社会の実現を理念として掲げています。

BPカストロールは、bpグループの一員としてサステナビリティ・フレームワークを掲げており、持続可能で豊かな社会の実現に貢献するためにSDGsで示された社会課題解決に向けて取り組むことは、新たな事業機会の創出や事業成長にもつながると考えています。



Getting to net zero - 脱炭素化・ネットゼロへの取り組み

Improving people's lives - 人々の生活環境と質の向上

Caring for our planet - 地球環境保全

■ サステナビリティと新中期経営計画

サステナビリティへの取り組みを加速するため、ステークホルダーの期待・要望、当社にとっての経営課題や重要性から優先順位付けを行い、注力していく5つの重要課題を選定しました。2030年の「あるべき姿」が示されているSDGsの達成へ向け、「新中期経営計画」では、5つの重要課題とそれに紐づく定性目標とSDGsの関係性を整理し、BPカストロールが「今なすべきこと」を明確にしています。

重要課題	中期経営計画での取り組み	貢献するSDGs
持続可能な社会の実現に向けて、安心・安全で環境と社会に配慮した製品・サービスの開発・販売を促進	<ul style="list-style-type: none"> CO₂ニュートラル製品 低粘度・ハイブリッド向け潤滑油 EV向け製品 	  
ライフサイクルの視点を取り入れ、事業活動全体での環境負荷低減を図る	<ul style="list-style-type: none"> 製品配送の更なる効率化 製品/パッケージの削減・再利用 	   
調達プロセスにおいては、持続可能性を配慮	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の少ない原材料調達の拡大 持続可能なサプライチェーンの構築 	   
多様な人材が働き甲斐をもち、活気のある職場環境づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> 新しい働き方、ハイブリッド勤務による生産性向上 多様な考え方や働き甲斐を生む職場づくり 	   
企業倫理・ガバナンス体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> リスク管理、コンプライアンス体制の強化 	

目標達成のための経営・事業戦略

急速に変化する市場環境の中においても、当社の強みを生かしながら長期的な信頼と価値を築きつつ、新たなカテゴリーへの挑戦も含めて事業ポートフォリオを拡大・再構築することにより収益基盤の更なる強化を目指します。また、持続可能で豊かな社会の実現に貢献するためにSDGsで示された社会課題解決に向けての取り組みからもたらされる既存の枠を超えた事業機会の創出や事業成長により、持続的に企業価値を向上し、更なる飛躍に向けての礎を築いていきます。

ACCELERATE THE CORE コアビジネスの強化	BALANCE THE PORTFOLIO ポートフォリオの最適化	CREATE NEW SPACES 新規ビジネス開発	DECARBONIZE AND DIGITIZE 脱炭素化とデジタル化	ENABLE OUR GROWTH 成長基盤の強化
<p><u>カーショップチャンネル</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高レベルのマーケット・シェアを持つ強みを活かしながら、潤滑油商品レンジの拡大、近隣製品カテゴリーの拡販 ・スポンサーシップや他業種とのコラボレーションを活用した、既存ユーザー層への更なる訴求と新規ユーザー層の開拓 ・e-Commerceの拡大 <p><u>カーディーラーチャンネル</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム・オイルの取扱店舗数並びに数量を拡大 	<p><u>新規チャンネルの開拓</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カストロールのブランド資産と新たなサービス提供を融合し、新たなチャンネル並びに顧客を開拓(車検/整備工場、タイヤ専門店、中古車販売店等) 	<p><u>近隣製品カテゴリーの開発</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビット向け商品拡充によるフルードも含めたカテゴリーリーダー化 ・近隣製品カテゴリーの開発・拡充 ・カーケア製品「カストロールPROシリーズ」の育成 <p><u>新規サービスの開発</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・IoT・AIを活用した「販売」「配送」「管理」の統合マネジメントシステムの開発・提供 <p><u>他業種との提携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シナジーの追求 	<p><u>電動化への対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・完全電気自動車(BEV)向けe-フルードの導入(トランスミッション、クーラント、グリース) ・低粘度・ハイブリッド向け潤滑油製品の開発・拡販 <p><u>脱炭素化への対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラル製品の認知拡大と拡販 ・製品パッケージ(容器)の削減によるCO₂削減 ・ライフサイクルを考えた原材料の脱炭素化 <p><u>デジタル化への対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Otcプロセス、バックオフィスのデジタル化 	<p><u>サプライチェーン強化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・原材料調達先の多様化による安定調達とコスト削減 ・配送網の効率化によるコスト・環境負荷の低減 <p><u>人材開発・育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい働き方(ハイブリッド型)の推進による働きがい並びに業務効率の向上 ・社員のキャリアプランに応じた人材育成・能力開発プログラムの拡充 ・「変化」「チャレンジ」を奨励する文化の醸成

基盤・土台

安全・健康・環境・コンプライアンス

人材・人財

財務指標

5年間を通じて達成すべき数値目標として、2026年度における売上高12,000百万円、経常利益2,450百万円を掲げました。この目標を達成するために、安全かつ活気のある職場環境を社員に提供し、サステナブル(持続可能)であり、かつマテリアル(大規模)なビジネスを実現することで、ベストブランド・マーケターとして業界をリードする利益を株主に提供します。

	2022年度(当期予想)	2026年度(目標)
売上高	11,266百万円	12,000百万円
経常利益	1,893百万円	2,450百万円

中期経営計画の詳細は当社ホームページに掲載しております。

https://www.bp.com/ja_jp/bp-castrol-japan/home/who-we-are/management-policy/medium-term-management-plan.html



2021年冬 カストロール EDGE ナショナルプロモーション

冬の需要期にカーショップチャンネルにおいて、全合成油“カストロール EDGE”の店頭プロモーションを実施いたしました。

最上位ブランド“カストロール EDGE”のユーザーを更に拡大するために、オリジナルデザインの人気アイテムを景品に採用し、購入者全員に“もれなく”プレゼントする仕組みにより、昨年同時期に実施したプロモーションに対し約150%の応募数となりました。

また、エンジンシャンプーも対象商品に含め“プラス一品”の提案により、客単価向上にも貢献いたしました。

成熟した市場環境にありながらも、プレミアムブランド“カストロール EDGE”と“エンジンシャンプー”への積極的な投資を継続し、高付加価値商品の拡大と新しい需要の創出を促進することで、市場の再活性化及び当社ビジネスの継続的な成長を目指してまいります。



低炭素社会に向けた貢献

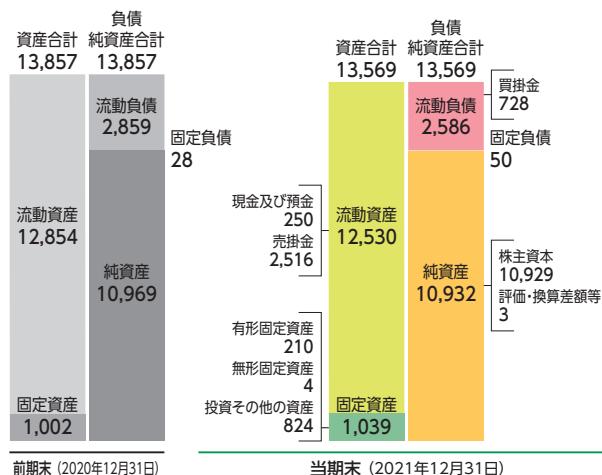
当社では、カーボンニュートラルの国際認定を受けた製品の販売を積極的に推進しています。また、ライフサイクルの視点でCO₂排出量の削減に取り組んでおり、その一環としてCO₂削減プロジェクトで創出された「カーボン・クレジット制度」を活用し、排出されたCO₂を相殺するカーボン・オフセットを実施しています。

右の写真は、中国で行われている風力発電プロジェクトの一コマです。このプロジェクトでは、火力発電所での発電からクリーンで再生可能な電力を生成する風力発電に置き換えることで、年間平均18万トンのCO₂排出量が削減されています。

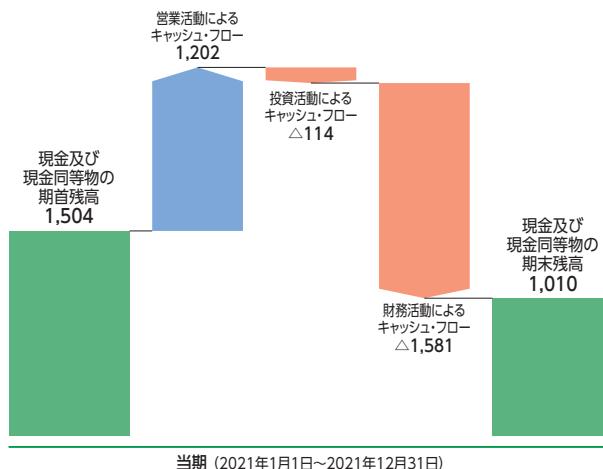


● 単位：百万円、百万円未満切り捨て

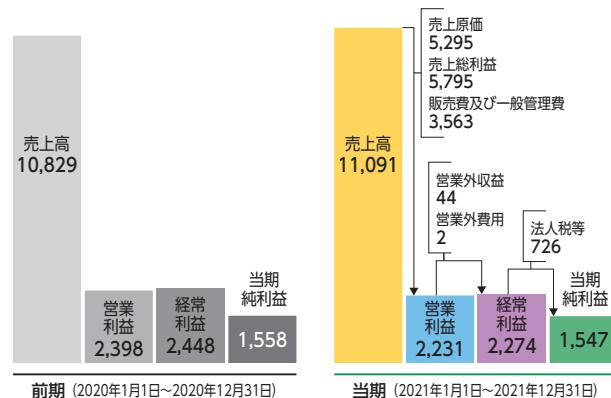
貸借対照表の概要



キャッシュ・フロー計算書の概要



損益計算書の概要



● 売上高

売上高は、主力ブランドをさらに強化するため、最新の省燃費車に向けた超低粘度オイルの導入、需要期におけるプロモーションの実施やeコマースの拡販に加え、「カーボンニュートラル」コンセプトの訴求、カーケア製品「カストロールプロシリーズ」へ年間を通して積極的な投資などに取り組むことで、11,091百万円となりました。

● 純資産

純資産の残高は、10,932百万円（前事業年度末は10,969百万円）となり、36百万円減少いたしました。これは、主に利益剰余金が当期純利益により1,547百万円増加し、剰余金の配当により1,584百万円減少したことによるものです。

● 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、1,202百万円（前年同期比623百万円の減少）となりました。これは、主に税引前当期純利益が2,274百万円及び減価償却費の計上109百万円により資金が増加した一方、売上債権の増加240百万円、特別退職金の支払額150百万円及び法人税等の支払額749百万円により資金が減少したことによるものです。

● 2021年12月31日現在

会社の概況

商号	ビーピー・カストロール株式会社 英文名:BP Castrol K.K.
本社	〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー20階 TEL:03-5719-6000(代)
設立	1978年9月
事業内容	英国の石油会社BP p.l.c.が持つCastrolブランド及びbpブランドの自動車用潤滑油を日本市場に合わせて製造・販売
資本金	14億91百万円
従業員数	96名(20名) (注)臨時従業員数は、()内に年間の平均人数を外数で記載しております。
子会社	ビーピー・ルブリカンツ株式会社 カストロール株式会社

役員

2022年3月24日現在

代表取締役会長	小石 孝之 カストロール株式会社代表取締役社長兼務 ビーピー・ルブリカンツ株式会社代表取締役社長兼務
代表取締役社長	平川 雅規
取締役	渡辺 克己
取締役	達川 英子
取締役(社外、監査等委員)	栗井 佐知子
取締役(社外、監査等委員)	松竹 直喜
取締役(社外、監査等委員)	望月 文夫

株式の概況

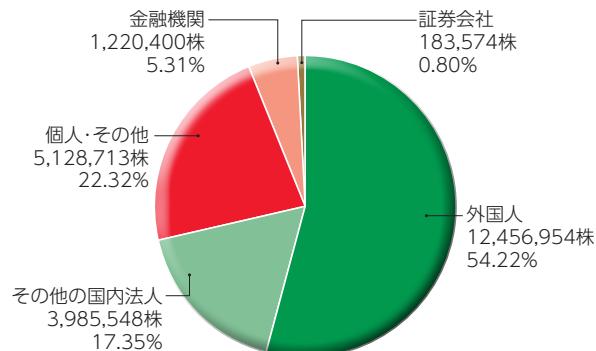
発行可能株式総数	118,000,000株
発行済株式の総数	22,975,189株
株主数	9,689名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
カストロール・リミテッド	12,234,273	53.29
ティー・ジェイ株式会社	2,661,748	11.59
日本自動車整備商工組合連合会	1,144,512	4.99
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	894,100	3.89
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	231,300	1.01
鈴木 育男	110,000	0.48
三島 泰	101,500	0.44
SMBC日興証券株式会社	58,800	0.26
長妻 和男	50,000	0.22
中本 辰夫	45,000	0.20

(注)持株比率は、自己株式17,474株を控除して計算しています。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで	
定時株主総会	毎年3月	
基準日	定時株主総会	12月31日
	期末配当金	12月31日
	中間配当金	6月30日
公告方法	電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。	
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	
郵便物送付先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
(電話照会先)	電話0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く) https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/	

●住所変更、単元未満株式の買取、配当金の受取方法のご指定等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株式等に関するマイナンバーのお届出のお願い

- 株式等の税務関係のお手続きに関しては、マイナンバーのお届出が必要です。
- お届出が済んでいない株主さまは、お取引のある証券会社等へマイナンバーのお届出をお願いします。

お届出が済んでいない株主さまは、お早めにお手続きください。

マイナンバーの取扱いについて

- マイナンバーの取扱いは厳格な安全管理措置が設けられており、利用範囲は社会保障・税・災害対策の行政手続きに限定されています。
- 法令で定められた目的以外でマイナンバーを使用することや他人にマイナンバーを提供することは禁じられています。

マイナンバー制度について

- マイナンバー(社会保障・税番号制度)ホームページ
<https://www.cao.go.jp/bangouseido/>
- マイナンバー総合フリーダイヤル マイナンバー

 0120-95-0178



マイナンバーのお届出およびお問い合わせ先について

<上場会社の株式等をお持ちの株主さま>

証券会社等にて株式等を管理・購入・取引されている場合は、証券会社等へお届出をお願いします。
お手続き方法など詳細につきましては、お取引のある証券会社等までお問い合わせください。

三井住友信託銀行株式会社
証券代行部

 0120-782-031

ビーピー・カストロール株式会社

本社 IR担当 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー20階
TEL:03-5719-6000(代)
URL:<http://www.bpcastrol.com>

証券コード 5015



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
森林に配慮して適切に管理された森林認証紙を使用し、環境に優しい植物油インキで印刷
するとともに、針金を使わない「ECO綴じ」製本を採用しています。